

などとの国際交流や、地元住民の文化活動の中核を担う施設でした。また併設された図書館は地元住民の意向により設置されたもので、実に4万冊の蔵書があるとのことでした。館内はきれいに区分けされており、整理が行き届いている印象を受けました。

資源循環型 農業施設視察

牧場、乳製品製造販売、産業廃棄物収集運搬、有機質肥料製造・販売、総合建設、設計、これらの会社を束ねる岡山グループの会長にご対応いただき、有機廃棄物堆肥化施設を視察した後、意見交換をさせていただきました。施設は会長自身の設計によるもので、有機物発酵処理システムは、地域の下水道汚泥を引き受け、肉用牛の敷料、杉皮を粉碎したバーク、おがこ、地域野菜の残渣を加えて発酵、熟成させて法

面緑化施工用基盤材や有機質土壌改良剤などを製造販売しています。また原材料のほとんどが同じグループ企業から発生したものを使用するなど徹底したコストダウンが図られています。今後、50基の風力発電を構想中、また和牛の繁殖にも手がけたいと会長は語っていました。また、「とにかく地域に必要な事を思いついたら率先して行う。そしてやると決めたら自信を持って信念を貫く覚悟が必要」という会長の言葉には、一同感心させられました。

バイオガス プラント視察

大量に発生する乳牛の糞尿を利用し、メタン発酵させたガスで発電するというバイオガスプラントを視察させていただきました。冬でも農業をとしました。青森県の施策を基に試験研究が行われていたが、本来、乳牛糞尿

はガスの発生効率があまり良くないため、食品加工残渣(りんご絞りかす・長いも)などと混合しているそうです。現在はプラント試験により、電気と温水を生産しているとのことですが、研究期間が2年を過ぎたばかりということもあり、十分な電氣量を得られないなど、まだまだ課題が多いとのことでした。今後は難しい部分も含めた研究結果を、各農家に対する技術的な指導の目安となるデータ収集をしていくとのことでした。

まとめ

以上、六ヶ所村における地域振興方策について調査してきました。六ヶ所村は原子燃料サイクル施設立地により、財政的にも豊かでハード面でのまちづくりがどんどん進んでいます。一方でインフラ整備が遅れ気味であるという印象も受けました。ただ誘致している施



設が来ればいいというだけでなく、それを利用した事業の展開、農業に止まらず地元住民が潤うまちづくり(人づくり)を進めなければならぬと改めて感じました。

【日程】

10月2日 幌延町 六ヶ所村

10月3日 六ヶ所村内

- 日本原燃(株)原子燃料サイクル施設視察
六ヶ所原燃PRセンターにて概況説明
ウラン濃縮工場(外観)、低レベル放射性廃棄物埋設センター、再処理工場制御室、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター視察
むつ小川原港視察(車中より)

- 六ヶ所村役場・農業委員会訪問
(状況説明・意見交換)

10月4日

六ヶ所村内

- 岡山グループ(会長岡山勝廣氏)の資源循環型施設視察、意見交換

野辺地町内

- 青森県農林総合研究センター畜産試験場視察

10月5日 帰町

【メンバー】

■団 長
小山 敏夫(助役)
■副団長
木村 誠(農委会長)
■調査員
板垣 幸実(農業委員)
平野 義和(")
糠 則明(")
栗野 治郎(")

高城 一彦(農業委員)
仁科 徹(町職員:問寒別出張所)
高橋 孝治(" :北星園)
足達 純也(" :農業委員会)
藤田 秀紀(" :総務課)
早坂 敦(" :総務課)
田村 浩希(" :教育委員会)
若杉 忍(" :経済課)
村元 夏輝(" :町民課)